



セルフチェックによる組織課題の可視化 と組織のリデザイン事業

特定非営利活動法人藤沢市民活動推進機構

活動

県内 11 組織に対する 自己診断ツールによる伴走支援の実施と、 中間支援組織の「支援力向上」を支援

ボランティア団体が、自主的かつ安定的に活動を続けるためには、団体が自らの組織状況を把握することが大変重要です。弊会が開発したセルフチェックツール「組織を支える17の視点」により、団体の現状をデータ化した後、県内中間支援組織（協力サポーター）及び専門家による伴走支援を行い、団体に合わせた課題解決手法の提案やワークショップ等を実施しました。

支援対象団体は、回答シートにより17の設問にお答えいただき、集計結果により支援方針の策定を行います。支援方針及びプランが固まり次第、伴走支援を約3か月実施して、年度末には成果報告フォーラムにて本事業での活動内容を発表しました。

協力サポーターには、支援対象団体への伴走支援を通して支援ノウハウを学ぶため、組織基盤強化の理解促進等の学習会参加に加え、本ツールの流れを実践及び体験することで、ボランティア団体への活動相談対応のスキルアップを目指していただきました。

Check !



<事業基本データ>

実施期間 2020 年度

委託料 計 5,000 千円



▲ 協力サポーター（中間支援組織）とのミーティングをオンラインで実施した様子



▲ 17の視点回答シートイメージ

成果

17の視点によって、団体の抱えている課題が明確に

① 支援対象団体に対する成果

回答シートの集計結果をメンバーで共有することで、組織の現状・課題について話し合うきっかけとなりました。それによりコミュニケーションが活発になり、組織基盤及び運営に対する意識向上及び活性化に寄与する事ができました。

伴走支援は、コロナ禍や3か月という限られた期間での実施ではありましたが、提案された支援方針に基づいて、専門家のアドバイスを受けながら課題の改善に向けて取り組みました。

② 協力サポーターに対する成果

担当する支援対象団体の他、他地域の事例を知る事で、組織が抱える課題や問題点の本質を探し出すトレーニングができ、活動相談スキルの向上に寄与することができました。



担当者のコメント

事務局長
細矢 岳彦さん

参加団体の「こんな組織にしていきたい、こうなったらいいな」を形にするべく、県内5地域の中間支援組織(NPO支援センター)とともに3か月程度伴走支援を行いました。団体に合わせた支援プランは、オンラインやオフライン等様々な手法にて実施し、組織基盤の強化やメンバーの組織基盤に対する意識の醸成につなげることができました。

中間支援組織には、伴走支援を通して支援ノウハウを学んでいただきました。本事業が各支援センターで行われる活動相談等の団体支援に活かしていただくことを願っています。

セルフチェックに必要なツールを提供し、当法人とともに、セルフチェック方法の習得から課題の見つけ方までの一連の流れを実践することで、事業終了後も、各中間支援組織が継続して活用するためのノウハウを得ることができました。

★ 参加団体の声 ★

・他の役員や会員に明確なエビデンスを提示し、問題解決や今後の組織基盤強化への取組がしやすくなりました。(支援対象団体アンケートより)

・支援対象団体は、こちらが考えていた以上に客観的な評価や第三者の支援を必要としていることが分かった。(協力サポーターアンケートより)



▲ 相模原地域での伴走支援の様子

NPO
法人

特定非営利活動法人
藤沢市民活動推進機構

代表者 理事長 手塚 明美

設立 2001年3月

住所 〒251-0052
藤沢市藤沢 577 番地
寿ビル 301 号室

活動紹介 「NPOを支援するNPO」として、まちの活性化のために、市民活動団体や行政、企業など他セクターとの連携をとりながら、NPO支援やまちづくり関連事業をしています。



チャレンジドチア、パラチアの普及と、
障がいのある子どもたちを対象にした
幅広い地域スポーツの振興と国際交流事業

特定非営利活動法人 Spitzen Performance



▲ 大会での演技の様子



▲ 講習会の様子

NPO
法人

特定非営利活動法人
Spitzen Performance

代表者 代表理事 多田 久剛

設立 2013年 3月

住所 相模原市南区相模大野2-19-6

実績

チャレンジドチアは、障がいの種類や重症度、有無にかかわらず、誰もが参加できるチアリーディングチームです。パラチアは、身体障がいのある方を対象としたチアリーディングで、こちらも健常者も参加できます。スピッツェンでは、日本で初めてチャレンジドチア・パラチアのチームを結成し、毎年3月に行われる日本最大級のチア&ダンスの全国大会への出場を目指し練習を行っています。また、現在はアメリカで行われる大会への出場も目指し、練習を行っています。

この活動を普及させるため、毎年6月にインストラクター養成講習会を行い、現在は北海道、千葉でもチームが結成され、今後、静岡と奈良でも結成予定です。



障がいのある方と地元の音楽グループとの
ジョイントコンサートや物販、作品展の実施
with ネットワーク



▲ WITH 会場の風景



▲ WITH コンサートタペストリー製作の様子



▲ WITH 販売コーナー

任意団体 with ネットワーク

代表者 代表 長田 恵美子

設立 1997年 4月

住所 横浜市都筑区

実績

障がいがあっても「ステージで歌いたい、輝きたい」という熱い思いを受けて、音楽の発表の場をつくることを目的として、with ネットワークを立ち上げました。音楽を通じて絆を深めること、地域交流を図ること、最終的には世代を超えてバリアフリーな社会に貢献することを目的としています。

バリアフリーWITH コンサートは、コンサート、販売コーナー、作品展の3つで構成されています。

NPO インターンシップの実施や
その全国モデルネットワークの構築、
学生と地域のパートナーシップ活動の表彰等の実施

特定非営利活動法人アクションポート横浜



▲ NPO インターンシップの様子



▲ 横浜アクションアワードの様子

NPO
法人

特定非営利活動法人
アクションポート横浜

代表者 代表理事 高城 芳之

設立 2008年 9月

住所 横浜市中区山下町 94 番地
横浜中華街パーキング協同組合内

実績

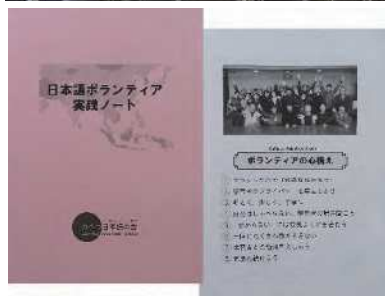
アクションポート横浜は、「まちにたくさんの主人公を！」をキャッチコピーに若者と NPO をつないでまちを盛り上げていきます。大学生が NPO にインターン生として参加する NPO インターンシップや若者と地域団体がパートナーシップを組んで活動している事例を表彰する「横浜アクションアワード」などの事業を展開しています。

次世代を担う若い世代が、まちに参加し、自分の思いやスキルを活かして関わることで、既存のまちのコミュニティが活性化し、よりよい社会の実現に貢献します。



日本語を母語としない人向けの 日本語教室を通じた生活支援等の実施

カベラ日本語の会



▲ 日本語ボランティア実践ノート作成ミーティングの様子



▲ 主婦へ教える様子(市民活動センター教室)

任意
団体

カベラ日本語の会

代表者 代表 林田 雅之

設立 1992年 5月

住所 平塚市

実績

カベラ日本語の会は、平塚に住むインドシナ難民や日本語を母語としない市民に、日本語支援を通して生活の困りごとを解決し、自立と共生を図ることを目的として設立されました。今年で30年になりますが、今もブレることなく学習者の生活目線に立って地道に日本語を通じて支援しています。その間、学習者は、技能実習生、研修生、主婦や学生、児童など幅が広がり増える状況にあります。今後の継続には、指導力の向上や、次世代を担うボランティアを自前で養成する必要性があり、3年間を費やし生活目線で日本語支援ができる独自の「日本語ボランティア実践ノート」を完成させました。また、コロナ禍の中、昨年よりオンライン授業も開始し、ニーズに合わせ積極的に活動しています。



小学生を対象とした遊びと環境学習活動 「もあなキッズアースビレッジ」

特定非営利活動法人もあなキッズ自然楽校



▲ ビーチクリーンで拾ったゴミを観察・分析している様子



▲ 活動報告会の様子

NPO
法人

特定非営利活動法人
もあなキッズ自然楽校

代表者 理事長 関山 隆一

設立 2007年 4月

住所 横浜市都筑区中川中央1-39-11
ライフ&シニアハウス港北 1F

実績

小学生を対象にした活動「もあなキッズアースビレッジ」において、環境問題について体験を通して学ぶ2つの活動を実施しました。1つ目は、学童「もあなのいえ」で行う『地球の日』です。放課後の時間帯に、遊びや身近なものを通して地球の環境問題について考え、自分たちができることを考える活動です。2020年度は年間を通して3つのテーマ(森林環境・ゴミ・衣服)について学びました。2つ目は、週末の環境学習活動『海山 eco』です。神奈川県の中川や海岸のクリーンアップ活動を通して、どんなゴミがあったか、なぜゴミが出るのか、ゴミを減らす・なくすにはどうしたらよいのか、等について考えていきました。各活動の最終回には報告会を実施し、保護者や地域の方に向けて、取組内容を報告しました。